

ふたば便り

旭川事務所：旭川市神楽 2 条 7 丁目 4-18

札幌事務所：札幌市北区北 7 条西 6 丁目 2-34 SK ビル 7F

東京事務所：東京都港区港南 2 丁目 15-1 品川インターシティ A-28F

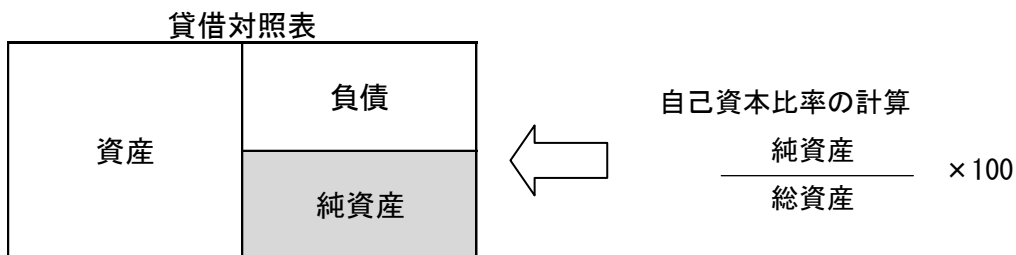
<http://www.futaba-tax.co.jp> フリーダイヤル(0120)978-028

2011 年 5 月号 (Vol. 105)

<不測の事態への対応～資金は足りる？>

企業の活動においては、「儲け」(収益性)だけでなく不測の事態にそなえた安全性も大変重要です。震災など何かの事情でしばらくの間売上が激減しても、当面の人件費などの固定費を支払って、回復するまでの間持ちこたえられる強い会社になりたいものです。安全性が高いかどうかは「自己資本比率」と「流動比率」をみればわかります。

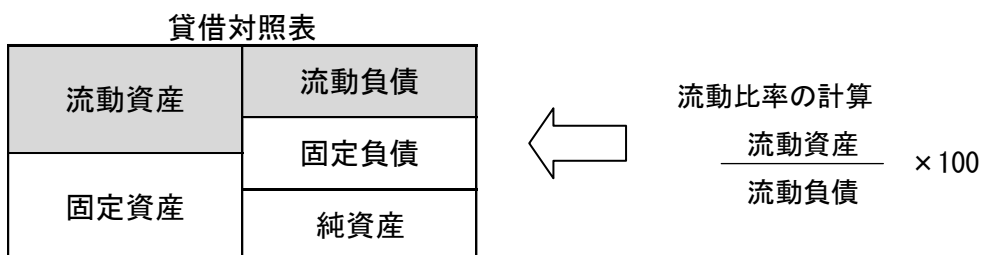
(1) 自己資本比率



自己資本比率は 30%超あることが望ましいのですが、できれば 40%超を目指したいところです。自己資本を充実させると、会社は簡単には倒産しなくなります。経営状態が良好なときには自己資本の充実をはかるべきで、過度な節税をしているといつまでも自己資本比率が良くなりません。

また、決算書上で自己資本比率が高くても、取得時よりも時価が下落している土地やゴルフ会員権などを所有している場合や、回収できない売掛債権を抱えていたりする場合もあるので、決算書上の自己資本比率ではなく、時価の貸借対照表に修正して評価しなおすことも必要でしょう。

(2) 流動比率



流動比率はすぐに資金化できる資産と、すぐに支払わなければならない負債との比率です。したがって、**流動比率が 100%を超えていれば**、1 年以内に支払不能になる確率が低くなるため、この比率が高いほど短期的な安全性が高いといえます。**流動比率は 150%超が望ましいのですが**、流動資産のなかに、現金化の難しい売掛債権や不良在庫が含まれていると、決算書上の流動比率が高くてもその分実際の比率は低くなるため注意が必要です。

ようやく北国でも春の到来が感じられる季節となりました。北国の草花は長く厳しい冬に耐えてきたので、強いといえます。人間も、厳しい環境にいることはとてもつらいことですが、それによって人の痛みがわかる人となることができるのかもしれない。

